

おかえり



地域おこし協力隊の皆さん。左から山本千栄さん、澤和城さん、小林朋子さん

ひきみとつながる。
UIターン情報誌2021.3月



グリーンファクトリー匹見の皆さん。左から前田恭三さん、齋藤覚志さん、前田誉さん、土田恭也さん、渡辺靖人さん



特集

◆ 匹見の林業に新たな風

町の宝「山林」を守り・活かす担い手、次々誕生

◆ 交流から滞在、そして定住へ

- 民泊・日帰り体験
- 田舎体験・ボランティア
- 田舎暮らし体験施設
- 就業支援・住まい
- 空き家に関する各種事業



こもれび林業の大久保紀東さん（左）と森當奈月さん

匹見の林業に新たな風

町の宝「山林」を守り・活かす担い手、次々誕生

益田市匹見町は面積の97%が広葉樹を主とする森林で、林業が町の基幹産業だった。旧町時代には地域振興策「緑の工場構想」をはじめとする事業が行われてきたが、過疎化による林業従事者の減少や高齢化、木材価格の低迷などにより、年々、植林や保育が行き届かなくなっている。

こうした中、林業事業者が次々に誕生し、「町の宝」を守り、活かす動きが始まっている。

「グリーンファクトリー匹見」誕生

令和2年2月、造林事業を核に、山林の維持・管理などを手掛ける合同会社「グリーンファクトリー匹見」（従業員7名）が誕生した。同社は、益田市の造林班職員として市有林などの管理に長年携わってきた齋藤光さん(46)を中心に設立。他の従業員も元造林班職員だ。

益田市はこれまで、造林班職員を毎年度再任用してきたが、同社設立に伴い、緊密に連携し、市有林等の管理と造林事業を推進することとした。現在、旧匹見町内の市有林など約4000haにおよぶ管理や、「木の駅ひきみ森の宝山直市場」(※)に集められた木材を活用した新事業、伐採した木材の市場出荷を行っている。その他、個人や団体からの依頼で、休耕田や畦畔の除草、除雪、農作業も担う。

山は、夏は暑く冬は寒い。機械や燃料、弁当を担いで現場まで1時間かけて歩くことも。幼馴染みの齋藤さんに誘われ、この道へ入



川伝いに現場へ向かう

え、達成感が味わえる」。前田恭二さん(57)も、「山からの眺めは最高。時々進む方向が分からなくなることもあるけどね」と笑う。「作業スピードが目を見張る速さ」という土田恭也さん(36)は、「技術力も作業スピードも高めたい」と毎日試行錯誤している。

従業員は年齢層は20代から70代まで幅広い。業務執行社員の岡崎朝子さん(47)曰く、「新しい仲間が入ってもすぐに打ち解け、和気藹々とした会社」だ。

近年、林業の現場に変化が起きている。林業は「キツイ・キタナイ・キケン」の3Kの職業とされてきたが、機械化や行政による新規就労者支援により、女性も担える産業になった。

同社も今春、林業に特化した積載式集材車両機械を導入予定で、



枝打ち(写真上)と間伐作業の様子

た前田誉さん(46)は、「正直、最初は嫌だったが」と吐露。だが、山仕事の妙味も知った。「やり終えた仕事が見

自伐型林業目指す地域おこし協力隊

益田市は「地域おこし協力隊制

度」を活用し、自伐型林業の担い手育成と、定住に向けた取組を行っている。自伐型林業は、少人数で森林の管理とその森林から収入を得ていくもので、持続可能な森林経営を目指す。

令和2年度は3名の隊員が研修を積んでいる。このうち4期生は2名。京都府出身の山本千栄さん(31)は、高校卒業後、様々なアルバイト経験を経て、幼少期から好きだった絵を仕事にしようと、1年間渡仏。絵を描きながら語学を学び、帰国後は画家兼デザイナーとして活動。母、佐登子さんの看病を機に、健康や食への関心が高まり、「伏流水の出る山が欲しい」との思いが高じ、親戚がいる益田市へ移住。折しも、協力隊の制度を知り、平成30年6月に着任した。山本さんと同期の澤和城さん(44)



は名古屋出身。大学卒業後、経理事務などの仕事に携わるものの、都会での働き方に疑問を抱く。幼い頃から自然に親しんできた澤さんは、仕事と生活の境が無い「木こりのような山仕事が自分には合う」とネット検索をしていたところ、自伐型林業の存在を知り、「自分のイメージに近い」と思った。益田市が協力隊を募集していることを知り、応募した。

2人は、自伐型林業の研修のほか、副業研修も行ってきた。同町能登の吉岡健次郎さん(77)を訪ね、チェーンソーを使った家具作りの指導を受けている。「自分たちが伐採した匹見産材を加工し、売れる商品を作りたい」と意気込んでいる。



吉岡健次郎さん(写真中央)を囲んで。「自主性を尊重し、指導は最小限にしている」と吉岡さん

ム力(Team)で「緑の(Green)工場(Factory)構想」を実現しようという思いを込めた。森の保全整備を基本に、担い手育成と林業の6次産業化を目指す。理事長の山本さんは、「一つの山で10個の仕事を作るような複合的な林業を実践したい」と展望を語る。

特殊伐採もこなす「こもれば林業」

令和3年3月末現在、協力隊を卒業した隊員のうち3名が益田市内に定住し、起業している。

1期生の大久保紀束さん(46)は任期中に「こもれば林業」を起こし、卒業後は、同期の森當奈月さん(38)と二人三脚で、特殊伐採や作業道開設、木の間伐・搬出などを手掛けている。なかでも、立ち木を倒さず、木に登り伐った木をロープで吊り下ろす特殊伐採は、高い技術と身体能力が求められる。市内に担い手はいない。そのため、森林組合、民間の林業会社、個人からの依頼が県内外から絶えない。グリーンファクトリー匹見からも、特殊伐採の依頼を受けている。

独立から4年目。大久保さんは、「樹木医の資格にも挑戦し、木の治療も手掛けたい」。仕事を通じ



大久保さん(写真左)が伐採した木を運搬する當さん。機械の操作は主に森當さんの担当

て自然への畏敬の念を持つ森當さんは、「地層や生態系など学びたい」と。共に、更なる高みを目指している。

林業の町再興に向け

「木の駅」の整備や「地域おこし協力隊制度」を活用した自伐型林業の担い手育成、木質バイオマス燃料の活用など、益田市は森林資源を生かした一体的な取組を進めてきた。市農林水産課匹見林業振興室の柳井将臣室長(51)は、「高齢化等による後継者不足の中、新たな林業事業体の設立は、担い手と雇用対策に繋がっていく。今後林業振興の一翼を担っていただきたい」と話している。

※：自伐型林業による木材の地域内供給と経済循環を図り、益田市が整備した木材の集積・加工拠点。市内の山林所有者と市民から間伐材を受入れ、対価として現金と地域通貨券を支給する一方、間伐材は薪にして匹見峡温泉やすらぎの湯の木質バイオマス燃料として活用している。

～交流から滞在、そして定住へ～

ますだ暮らしキャラクター



ぐりお わさまる ゆずりん

ちよこつと匹見を体験したい方は… (令和3年3月末現在の情報です。)

◇民泊



みよし
民泊「三四」

- 体験内容
料理体験 (押し寿司、巻き寿司、郷土料理「うずめ飯」、手打ちそば、餅)、布ぞうり作り等
- 料金
1泊2食付7,000円 (食事は共同調理) ※体験料は別途必要
- 住所・連絡先
益田市匹見町道川イ214 tel/fax 0856-58-0020 (三好)

◇日帰り体験



うつだに
「内容とちの郷」

- 体験内容
料理体験 (わさび漬け、こんにやく、とちもち)、わさび収穫体験
- 料金
直接お問い合わせ下さい。
- 住所・連絡先
益田市匹見町石谷口561 tel/fax 0856-56-0589 (村上)

◇田舎体験・ボランティア

【田舎体験】

匹見町では、豊かな自然を生かした体験をはじめ、「田舎料理体験」や「ものづくり体験」、「収穫体験」「歴史・文化体験」などを楽しむことができます。



わさび収穫体験

【ボランティア】

少子高齢化が進む匹見町では、集落内の共同作業やイベント開催などが年々困難になっています。そこで、地域外の方にボランティア会員登録をしていただき、軽度の作業に携わってもらうことで、田舎と都市との交流を図っています。



ブルーベリー摘み取り作業

もっと匹見に滞在したい方は…

田舎暮らしの体験や、農林業またはその他の産業に関する技術や経営ノウハウを習得するために滞在可能な施設として、期限つきのお試し施設「益田市立田舎暮らし体験施設」を開設しています。

《使用者の条件》

- (1) 益田市への移住を強く希望し、田舎暮らしを体験しようとする人
- (2) 農林業その他の産業に関する技術や経営ノウハウの習得のため研修を受けようとする人

《使用期間》

1ヵ月以上3年以内

《使用料》

令和3年3月末現在

施設区分	戸数(空き戸数)	使用料(月額)
単身用(1DK)	2(0)	8,100円
世帯用(3DK)	2(2)	16,000円

※1部屋に1台分の駐車スペースを用意しています。

《使用について》

施設の使用については、市長の許可を受ける必要があります。使用希望の方は、「田舎暮らし体験施設使用申込書」を下記までご提出下さい。

(空室状況等詳しくは、益田市のホームページをご確認いただくか、下記までお問い合わせ下さい。)



匹見への定住をお考えの方は…

◇UIターン相談窓口

匹見への移住をお考えの方のために、相談窓口を設置しています。困ったことや分からないことがあれば、お気軽に下記窓口まで、ご相談ください。

◇住まい

空き家や公営住宅をご紹介します。

////// 空き家に関する各種事業 ////

空き家バンク制度

益田市は、空き家の有効活用とUIターン希望者の定住促進を図るため、「空き家バンク制度」を創設しています。この制度は、空き家を賃貸あるいは売却してもよいと考える所有者と、UIターン希望者にそれぞれ登録してもらい、総合支所が窓口となり、空き家の情報収集・提供を行うものです。

年々、田舎暮らしを強く希望する方々が増えています。匹見町内に空き家をお持ちの方で、空き家を「貸し住宅にしてもいい」「売却してもいい」とお考えの方がいらっしゃいましたら、ご連絡下さい。

益田市空き家改修事業

「空き家バンク制度」の住宅を利用して定住する場合、その住宅を改修した際の経費の3分の1以内(上限30万円)を①空き家の購入者または入居者(UIターン者に限る)、または②UIターン者と賃貸借契約を締結した空き家の所有者に補助します。ただし、経費の額が30万円以上であるものに限りません。

※この他にも、空き家や住宅に関する補助制度があります。

◎ 定住・UIターンに関する問い合わせ先

益田市匹見総合支所 地域振興課
〒698-1211 益田市匹見町匹見イ1260

電話 0856-56-0300 FAX 0856-56-0362
ホームページ <http://www.city.masuda.lg.jp/teiju/>